

第2学期 「くらしのたしかめ」の総括

校長 高野 力郎

○ はじめに

本年度1学期から始めた「くらしのたしかめ」のねらいを最初に確認したい。

1 基本的な構えを育む

- ・主体的・対話的な授業を構築する基本的な構えを育むことである。基本的な構えとは、責任ある自分の考えを持ち、仲間の考えや思いを受容、共感しながら自分との違いを見付け、自分を見つめ、見直し、再構成することである。

2 仲間との関係性を深める体験

- ・仲間との話し合い、聴き合いは楽しい、意味がある、〇〇さんには自分にはない良さがある等、仲間との活動（話し合い）はすばらしい、価値があると子供たちが実感することである。そのことを日々行っている学級経営は大概上手くいく。

3 教師の人間性を高める

- ・他人の悪い面を見ることは誰でも容易くできる。それは人間の性とも言えよう。逆に他人の良い面をみることは努力が必要である。子供の良い面を捉えるように心がけることで教師の人間性が育まれる。人、もの、ことに対して多面的・多角的に捉える度量を大きくすることにつながる。このことは、単元構想、授業構想等の力、そして子供のよさを捉え伸ばす教師には、不可欠な資質と言える。

○ 子供の育ちについて

1 子供が主役となる風土が形成されている

- ・腹一杯話ができる。仲間と自然な会話ができる。運営の在り方を教師と交渉できる。（話し合いの方向性、板書の利用許可）

2 個性ある子供の構想が伺える

- ・構想を語り、構想を練り上げていく子供がいる。（例：Sさんの発言）

○ 今後の展望について

1 子供の発言を具体化し、背景を捉えること

- ・Sさんの発言を振り返ると、発言ごとに構想が具体化し、構想を支えている願いが明らかとなってくる。Sさんは、1学期仲間とスイカパーティーをしたかったがコロナ禍の為できず、何かしらの形で再開を期していたことを垣間見ることができた。このSさんの構想をより具体化し、味わうことは、聴いている子供たちにとって大きな成長の契機となる。

2 子供同士で吟味していく場をつくること

- ・子供の発言の意図が教師への報告意識から仲間への自然で真剣な語りかけに変わりつつある。ようやくIRE連鎖が紐解かれてきた感がある。今後は、子供の取組や構想が教材となる捉えや場の構築が可能である。そのことで子供同士が関わり、練り上げていく風土が強まる。

S さんの発言の変遷

大豆を育てて食べてみたかった。それでおいしかったらみんなで、豆の給食を食べて…育ててみたくなったの、豆（さや）に種があったらみんなで育てたい。

R 君の衝撃の報告「落ちていた豆（さや）の中には何も入っていなかった」

膨らんでいるから豆が入っていると思う。大豆に似ていて、食べられるのだと思う。

全員でさやの確認

T この後どうしたい？

学校で育ててみたい。夏どうなるか研究して、2年生になっても育てたい。家でも育ててみたい。芽が出てこなかったら悲しいけど、芽出てくるかも楽しみ。

柿の種の仲間かもしれない。柿とか出てくるかもしれない。柿パーティーしたい。スイカの時食べれなかったから、柿で…

ぼんやりとみれば、豆か分からないけど、何でもいいからみんなで食べたい。パーティーをしたい S さん。だが、刻々と変化していく発言に着眼したい。S さんの中に眠っていた思いや考え、構想が具体化されていないであろうか。